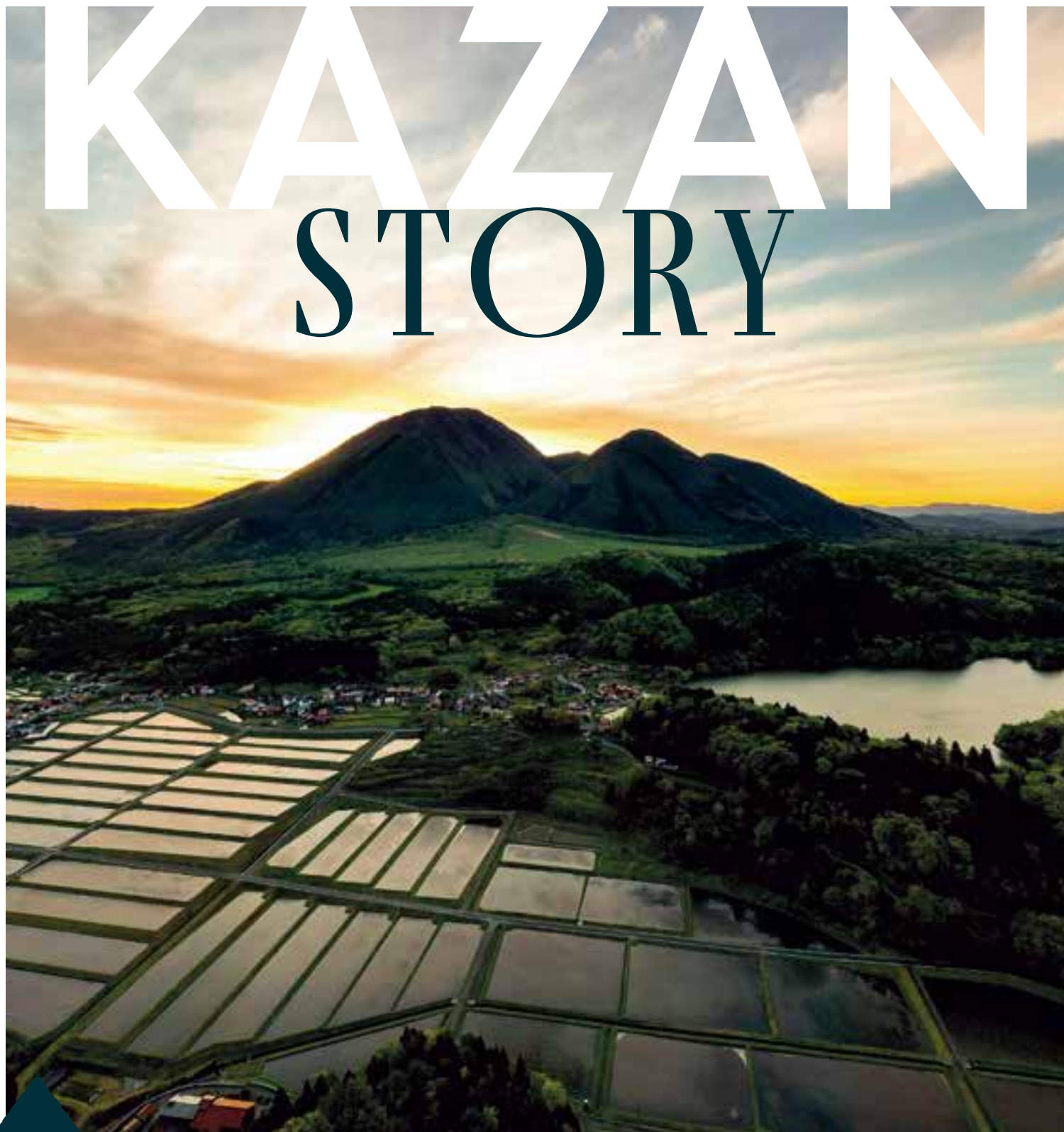


石見の火山が伝える悠久の歴史

— “縄文の森” “銀の山”と出逢える旅へ —



KAZAN STORY



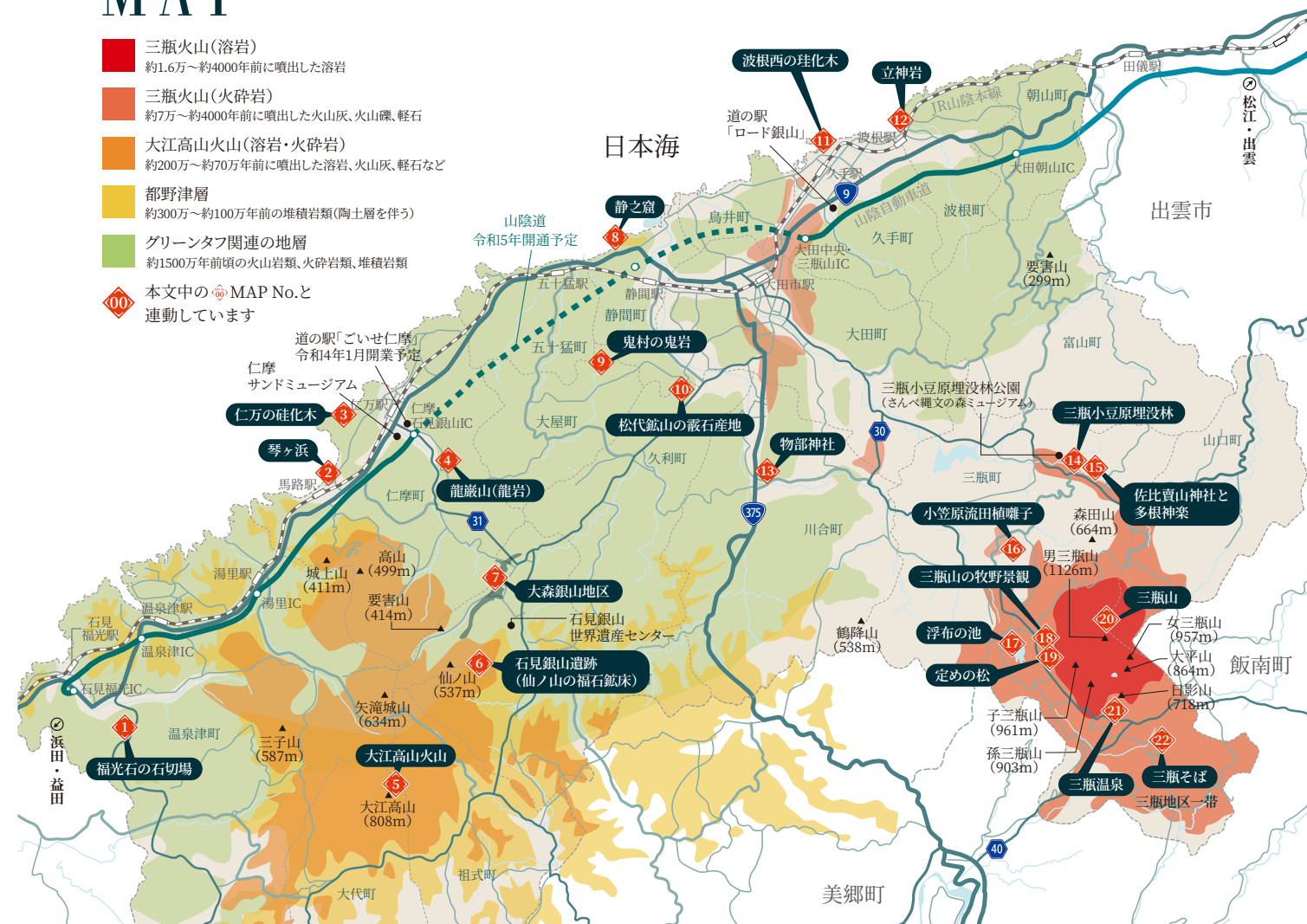
解る大田市の日本遺産



Japan Heritage Oda City

MAP

- 三瓶火山(溶岩)
約1.6万～約4000年前に噴出した溶岩
- 三瓶火山(火砕岩)
約7万～約4000年前に噴出した火山灰、火山礫、軽石
- 大江高山火山(溶岩・火砕岩)
約200万～約70万年前に噴出した溶岩、火山灰、軽石など
- 都野津層
約300万～約100万年前の堆積岩類(陶土層を伴う)
- グリーンタフ関連の地層
約1500万年前頃の火山岩類、火砕岩類、堆積岩類
- ◆ 本文中のMAP No.と連動しています



発行元 大田市日本遺産推進協議会 (事務局:大田市役所観光振興課内)
〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111
TEL:0854-83-8192 FAX:0854-82-9150 Mail:o-kankou@city.ohda.lg.jp

大田市日本遺産
特設サイト
<https://www.iwami-kazan.jp/>

令和3年度文化庁
文化資源活用事業費補助金
(観光拠点整備事業)



監修:島根県立三瓶自然館 学芸員 中村唯史

CONTENTS

I 現代によみがえる縄文の森

- 05 三瓶小豆原埋没林
三瓶山

II 豊かな暮らしを育んだ三瓶火山

- 06 三瓶山の牧野景観
三瓶そば
07 三瓶温泉
浮布の池
物部神社
08 佐比賣山神社と多根神楽
09 小笠原流田植囃子
定めめの松

III 火山が生んだ石見銀山

- 10 大江高山火山
石見銀山遺跡(仙ノ山の福石鉱床)
11 大森銀山地区
琴ヶ浜

IV 暮らしを支えた火山の恵み

- 12 松代鉱山の霞石産地
13 福光石の石切場
14 鬼村の鬼岩
立神岩
仁万の珪化木
15 波根西の珪化木
静之窟
龍巖山(龍岩)



地下へ続く階段を下りていくと、目の前にそびえ立つ幾本もの巨大な木――三瓶山の噴火で地中深くに埋まった縄文時代の木々が、悠久の時を超え、当時のままの姿を現しているのです。火山大国である日本。人々を脅かす噴火ですが、「石見の国おだ」には様々な恩恵をもたらしてくれました。かつて世界に「ジパング(日本)」の名をとどろかせた石見銀山の鉱床もマグマから生まれたのです。そして火山が育んだ豊かな大地は生活を潤してくれました。暮らしの根っこに火山の歴史が息づくまち「石見の国おだ」。ここには火の国のめぐみと出逢える旅が待っています。

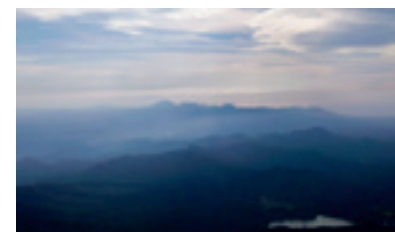


POINT 1 縄文の森を残した三瓶火山



大田市の象徴であり、国引き神話に登場する神話の山でもある三瓶山。火山が作った峰は信仰の対象となり、ふもとに流れ下った火山灰は縄文時代の森を残しました。また、火山灰土壌を上手に使った人々の営みにより、たおやかな草原の景観が生まれたのです。

POINT 2 石見銀山を生んだ大江高山火山



16世紀、石見銀山の銀は国内のみならず、大航海時代の世界に大きな影響を及ぼしました。その歴史的な輝きをもたらした原動力は、大江高山火山の作用が生じた「福石」でした。石見銀山の輝きは、大田市の歴史文化の原点でもあるのです。

POINT 3 グリーンタフ変動の火山



大陸の端を裂き、日本海が拡大した日本列島形成の大地殻変動は、激しい火山活動を伴いました。その火山噴出物に特徴的な緑色凝灰岩(グリーンタフ)が大田市に広く分布し、さまざまな鉱物資源と岩石資源、変化に富んだ景観をもたらしました。



日本遺産について

「日本遺産(Japan Heritage)」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語るうえで欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

I 現代によみがえる 縄文の森

山の幸、海の恵みを受けて人々が暮らしを営んだ縄文時代、日本列島には巨木が生い茂る森林が広がっていました。その壮大な森を現代に伝える森があります。三瓶火山の噴火といくつもの偶然が重なることで奇跡的に残った三瓶小豆原埋没林。力強くそびえる巨木を見上げると、原始の風景にタイムスリップしたような錯覚さえ覚えるかも知れません。

地底にそびえる神秘の森

MAP No. 14 三瓶小豆原埋没林

さんべあずきはらいぼつりん

巨大な木々が茂っていた縄文時代の森。三瓶小豆原埋没林は、縄文の森の姿を今に伝える貴重な存在です。この森は、約4000年の間、地面の下に埋もれていました。

発掘された森はスギが中心で、その多くは幹の太さが2m前後に達する巨木です。一部を発掘状態で公開する地下展示室には、当時のまま地面に根を張った巨木が立ち並びます。まっすぐに伸びるスギの幹

は、残っている部分だけでも高さ10mを超え、生きていた時の樹高は40m以上と推定されます。その木を見上げると、縄文人が見た森の風景が想像できることでしょう。その森には人による開発の手が及んでおらず、数百年から数千年の時間をかけて壮大な森が育まれたのです。

この森を今に伝える役割を果たしたのは三瓶火山の噴火でした。木々は火山活動で発生した土石流と火

砕流に襲われながらも、地形的な偶然が重なったおかげで倒されず、燃えずに深く埋もれ、奇跡的に現代まで残されたのです。

三瓶小豆原埋没林公園
(さんべ縄文の森ミュージアム)
〒694-0003
島根県大田市三瓶町多根口58-2
TEL 0854-8619500

P 有り あり



大地の息吹を感じる
活火山

MAP No. 20 三瓶山

さんべさん

国引き神話に登場し、昔も今も地域の象徴として親しまれている三瓶山。草花に富んだ自然観察フィールドとしても知られ、登山やキャンプに多くの人が訪れます。

この山は幾度も繰り返し返された火山噴火で形成されました。火山活動は約10万年前にはじまり、約4000年前まで続きました。古い時期の大噴火では直径4.5kmに達するカルデラが作られ、縄文時代以降の噴火でカルデラの内側に噴出した溶岩が男三瓶山(1126m)を最高峰とする峰々を作りました。男、女、子、孫と、家族の名が付けられた峰が並ぶ姿と、その山すそのなだらかな斜面に広がる草原が特徴的で、この景観が評価されて国立公園に指定されています。

P 有り あり



Ⅱ 豊かな暮らしを育んだ三瓶火山

湧き水に恵まれた三瓶山から流れ出る川は、流域の田畑に豊かな実りをもたらし、人々は山を農耕の神が宿る地として敬い、大切にしてきました。一方、三瓶山の火山灰土壌は豊かな土地ではなかったかも知れません。しかし、人々は土地を牛の飼育やソバの栽培などに上手に使ってきました。その歴史が、現在の魅力的な自然環境につながっているのです。



東の原 牧野景観



北の原 牧野景観

火山の地形のすそ野に展開

MAP No. 18 三瓶山の牧野景観

さんべさんのぼくやけいかん

こんもりとした峰のふもとに広がる草原の風景。放牧の牛がたたくむ姿を見られることもあります。草原はオキナグサやユウスゲ、リンドウなどの希少な草花の宝庫でもあります。

草原が広がる景観は、長年にわたる牛馬の飼育で生まれました。火山灰土壌の土地は水に乏しく、田畑に利用できないものでした。この土地を使って牛馬を飼育することを奨

励したのは、江戸時代の前半に石見銀山領内に置かれた吉永藩でした。農耕や荷物運搬の労働力として重要だった牛の飼育は、経済振興策でもありました。草原は旧日本陸軍の演習地に併用された時期もあり、長い歴史を経て現在の景観が成立しました。

P 有り 駐車場有り



西の原 牧野景観

江戸時代より栄えた湯治場

MAP No. 21 三瓶温泉

さんべおんせん

薄茶色の濁り湯が体を温めてくれる三瓶温泉は、火山の熱の恵み。孫三瓶山と日影山の間にある源泉からは毎分3000ℓを超える湯が湧き出し、中国地方随一の自噴量を誇ります。泉質はナトリウム・塩化物泉、源泉温度は37℃前後。わき出た直後には無色透明だった湯は、やがて鉄分などのミネラルによって濁り湯に変わります。源泉掛け流しの湯に身を沈めてしばらくする

と、二酸化炭素の小さな泡が体を包み込み、じっくりと体を温めてくれます。

三瓶温泉の熱源は、地下に残るマグマです。そのマグマは噴火につながるほどの熱さではないとみられますが、染みこんだ地下水を温め、温泉として地表へ送り返す役割を果たします。



三瓶温泉の源泉

噴火でできた湖

MAP No. 17 浮布の池

うきぬのいけ

静かに水をたたえる浮布の池の先に男三瓶山と子三瓶山がそびえ、風がない日には湖面に「逆さ三瓶」が映ります。この池は西の原の下方にあり、面積約13.5haの天然湖沼です。三瓶火山の噴出物が谷の出口を塞いだせき止め湖で、大田市の平野部へ流れる静間川の源流点とされます。田畑を潤す水源としても大切な池で、湖岸の邇幣姫神社は流域の農家

からの信仰を集めます。池に流れ込む水はわずかで、湖底からの湧水が池の水の多くをまかなっていると考えられます。

大蛇と娘にまつわる伝承が伝わり、入水した娘の衣が湖面に浮いたことが名称の由来とされます。また、柿本人麻呂の万葉歌にある「浮沼池」の候補地のひとつです。

P 有り 駐車場有り



三瓶高原の栽培

MAP No. 22 三瓶そば

さんべそば

細めに切られたそばをかみしめると芳醇な香りが広がる三瓶そば。そば通をも唸らせる味わいは、江戸時代から伝わる三瓶在来種を大切に守ってきた農家とそば店主たちに支えられています。

そばは水や栄養分に乏しい土地でも育ち、短期間で実ることから、火山灰土壌の三瓶地域で昔から盛んに栽培されてきました。寒暖差が大きい高原気候が風味を育み、明治時代には西日本で唯一、そばの名産地に数えられています。2020年には、地域産品を



保護する地理的表示(GI)に登録され、全国的な評価が再び高まっています。

薬味として欠かせないワサビも三瓶山の特産品で、山麓に点在する豊富な湧水を使って上質なワサビが栽培されています。



三瓶そば



文武両道・鎮魂・勝運の神

MAP No. 13 物部神社

もののべじんじや

大和の豪族、物部氏の始祖とされる宇摩志麻遲尊をまつる物部神社は、三瓶山から流れる静間川が忍原川と合流する大田市川合町に鎮座します。その社殿は荘厳で、春日造として国内最大の本殿を有します。物部氏との関わりと同時に、三瓶山の名称の由来とされる「瓶」が御神体の「二瓶社」を境内社としてまつるなど、古くからの三瓶山への信仰をうかがわせる神社

でもあります。7月に行われる御田植祭は、童女を三瓶山から招いた田の神「サンバイサン」の化身と見立てて執り行われます。童女のサンバイサンは、三瓶山の古名、佐比賣山が示す「サ(農耕)の姫」も連想させる存在です。

石見国一宮物部神社
〒694-0011
島根県大田市川合町川合154-5
TEL 0854-820644

P 有り 駐車場有り





豊穣を願う行事

MAP No. 16 小笠原流 田植囃子

おがさわらりゅうたうえばやし

小笠原流田植囃子は、中国地方に伝わる民俗芸能で、その歴史は戦国時代までさかのぼります。色鮮やかな衣装をまとって太鼓、鼓、笛などを奏でる華やかな芸能で、豊穣を祈る農耕神事でもあります。三瓶山の地域では、三瓶町池田と三瓶町小屋原に伝わり、両地区を校区とする池田小学校でも継承の取り組みが行われています。7月に物部神社で行われる御田植祭では、小屋原の田植囃子が奉納され、水源の山である三瓶山への信仰の一端を物語ります。大田市では、大代町の小笠原流田植囃子が市の無形民俗文化財に指定されているほか、水上町で花田植が継承されています。

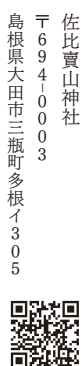


山への信仰を伝える

MAP No. 15 佐比賣山神社と多根神楽

さひめやましんじやとたねがくら

三瓶山の古名「佐比賣山」の名は、古くは733年に編纂された『出雲國風土記』に記載され、国引き神話の杭に見立てられています。その古名を今に伝えるのが、大田市三瓶町多根に鎮座する佐比賣山神社です。古代には信仰の対象でもあった三瓶山の鎮守に位置づけられてきた神社で、891年の創建と伝わります。祭神には大己貴命、少彦名命、須勢理毘売命をまつります。この神社の例大祭や7年ごとに執り行われる農耕神事の大元祭では、多根神楽が奉納されます。伝統的な六調子



多根神楽伝承館 定期公演
〒694-0003
島根県大田市三瓶町多根
TEL 0854-881-9950
(大田市観光協会)

P 有り 有



四百年以上の老松

MAP No. 19 定めの松

さだめのまつ

西から三瓶山に続く道(三瓶山公園線)を上り、西の原の草原が眼前に広がると、幾百年の年月を経た老松「定めの松」が迎ええてくれます。この松は、石見銀山の初代奉行、大久保長安が行った石見検地の時に、一里塚の塚松として植えられたと伝わり、以前は道路の両側に対になっていました(一方は2007年に枯死)。根上がりした根がいくつもの岩を抱え、もとは塚の上に植えられていたことを物語ります。西の原は大雪の時には雪原に変わり、昔は吹雪の時などは進む方向さえわからなくなることもありました。道の目印として、定めの松を起点に数百m間隔で松が植えられ、道行く人々を見守る役割を果たしてきました。

P 有り 有





鉾山町として栄えた町

大森銀山地区

MAP No. 7

おおもりぎんざんちく

石見銀山の鉾山町として成立した大森町は、銀山川が流れる谷に沿って赤瓦の家並みが連なります。江戸時代の町割をとどめる町並みは、往時の面影を残しつつ、現代の暮らしが営まれています。江戸時代には大森代官所が置かれ、幕府が直轄した石見銀山領の政治経済の中心地でした。

火山の作用でできた「福石」が石見銀山隆盛の原点になったことに

加えて、町並みには日本列島形成の時代の火山が作ったグリーンタフ（緑色凝灰岩）が石材として多く使われ、形を整えた石で組んだ石垣などが整然とした景観を生み出しています。町並みの中でも採石が行われ、各所に残る石切り場の跡が独特な雰囲気につながっています。



鳴砂の浜

琴ヶ浜

MAP No. 2

ことがはま

延長14kmにわたって白砂が続く琴ヶ浜は、踏みしめると音を奏でる鳴砂の浜です。石英質で大きさが揃った砂が擦れ、ぶつかり合うことで音を発しますが、汚れてしまうとすぐに音は失われます。鳴砂は浜がきれいであることの証でもあります。浜は半円状の湾にあり、その両側にはグリーンタフ（緑色凝灰岩）の岩盤が岬状に突き出します。この形が波の力をほどよくさえぎり、砂

は湾内で波に洗われ続けていると考えられています。湾そのものが火山の噴火口という説もあります。浜の背後には馬路地区の家並みが迫ります。伝統的な盆踊りが催されるなど、生活に関わり深い浜を住民が大切にできたことが、日本一と言われる鳴砂の美しさを守っています。



鳴砂（なりすな）

石見銀山を作った火山

大江高山火山

MAP No. 5

おおえたかやまかざん

大江高山（808m）は、春には多くのギフチョウが飛び交い、ミスミソウやイズモコバイモという希少な山野草の花が見られ、多くの登山客が訪れます。この山の北側には急峻な山が連なり、石見高原と呼ばれるなだらかな地形の中で目をひく山群を構成しています。これらの山々は、約200万年前から約60万年前頃にかけて繰り返し形成された火山活動によって形成されたもので、

大江高山火山と総称されます。粘り気が強い溶岩によってできた30個以上の「溶岩円頂丘」が集まり、その中で唯一、仙ノ山（537m）は火山灰や火山礫が降りつもった「火山碎屑丘」です。峰々の一角に石見銀山があり、矢滝城山、前矢滝には銀山守衛の城が置かれました。



III 火山が生んだ石見銀山

博多の商人、神屋寿禎が開発したと伝わる石見銀山。16世紀から17世紀初めにかけて、当時としては大量の銀を産出した原動力は「福石」と呼ばれた鉾石。この鉾石を生み出したのは火山でした。火山がもたらした銀の経済力は国内のみならず東アジアからヨーロッパの社会にまで影響して、世界の歴史にひとつの画期を残しました。



石見銀山、輝きの源

石見銀山遺跡

（仙ノ山の福石鉾床）

MAP No. 6

いわみぎんざんいせき

（せんのかやまのふくいしこうしょう）

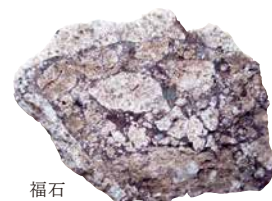


石見銀山は、16世紀に本格的な開発が始まり、量産された銀は国内外の政治経済に影響を及ぼしました。その成功の理由として、「福石」という独特の鉾石を見逃せません。福石は、火山灰や火山礫が堆積してできた岩石が銀の鉾石になったものです。仙ノ山の山頂付近から東側の山腹にかけての福石が分布する範囲が「福石鉾床」と呼ばれました。福石は大きな広がりを持って分布していることがあり、石自体がそれほど硬くないために、効率良く掘ることができました。16世紀に導入された「灰吹法」という製錬技術で銀を取り出しやすい鉾物の組み合わせだったこともあり、16世紀から17世紀前半にかけての銀の量産につながりました。

P 有り



今も残る間歩の跡



福石

IV暮らしを支えた火山の恵み

はるか昔、日本列島が生まれた時代の火山活動は、大田市に多くの資源と変化に富んだ風景をもたらししました。大噴火で厚く積もった火山灰の岩石は石材として生活に使われ、噴火で埋もれた樹木は珪化木になりました。近代には国内屈指の生産量を誇った石こうも火山の産物。鉱山の町でもあった時代の記憶を「松代鉱山の霰石」が伝えます。



世界でも珍しい形状

MAP No. 10 松代鉱山の霰石産地

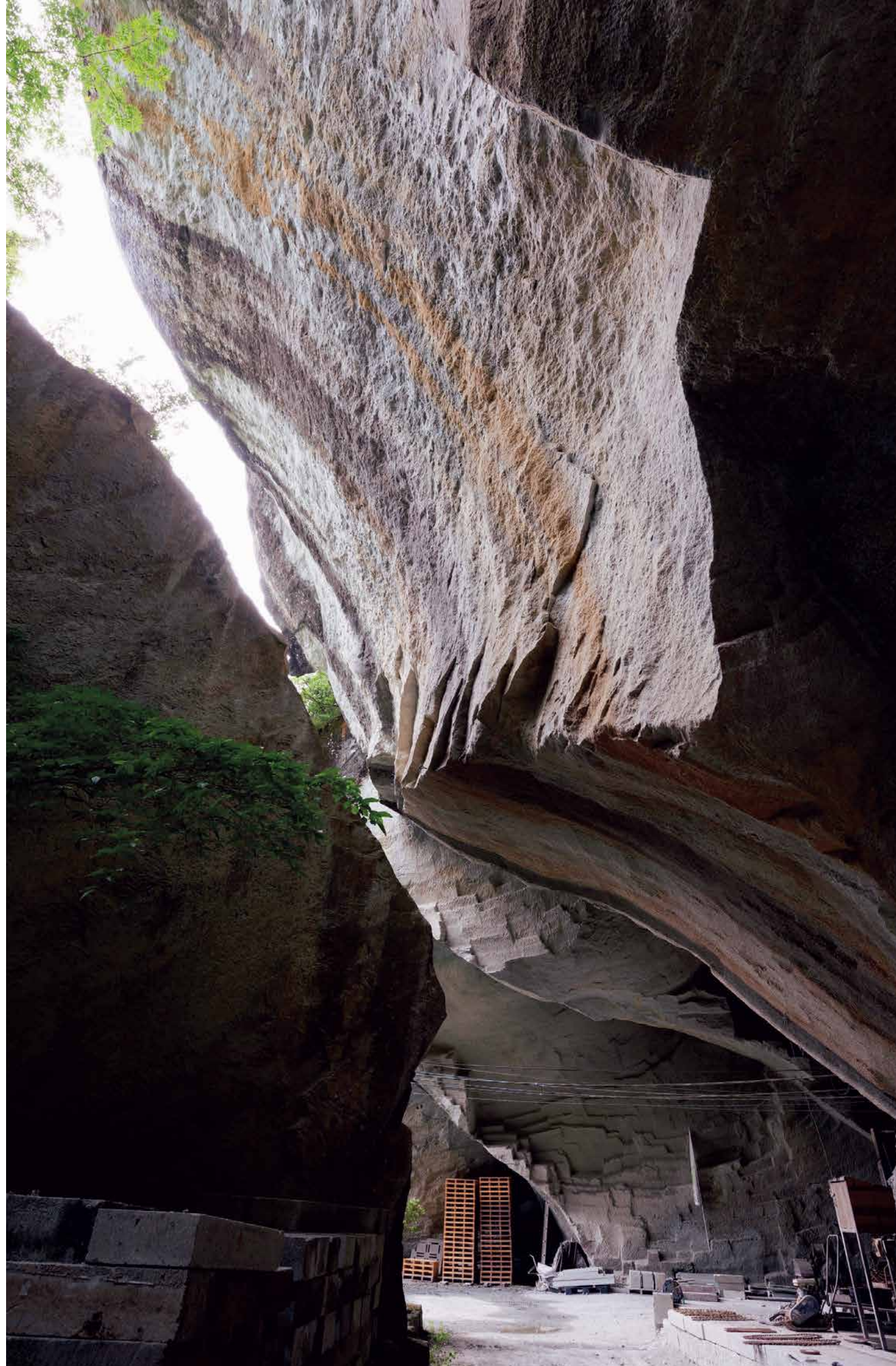
まつしろこうさんのあられいしさんち

半透明の結晶が集まり、大きなものはバレーボールほどの球状になる松代鉱山の霰石は、世界でも他に例がない形と大きさが特徴です。霰石は炭酸カルシウムからなる鉱物で、成分的にはセメントの主原料になる石灰岩(方解石)と同じです。霰石を産出した松代鉱山は、明治時代から1960年代まで石こうが採掘された鉱山です。かつて島根県は日本一の石こうの生産量を誇

り、大田市と出雲市の鉱山が生産を支え、松代鉱山は主力鉱山のひとつでした。霰石は石こう鉱床の近くから産出し、形の珍しさから観賞用に珍重されました。「松代鉱山の霰石産地」の名称で国の天然記念物に指定されていますが、坑道は閉鎖され、現在は立ち入りできません。



松代鉱山跡地



石の文化をうかがい知る

MAP No. 1 福光石の石切場

ふくみついのいしきりば

斜めに掘り進められた手掘りの採石跡の歴史は室町時代にまでさかのぼり、その奥の地下空間では現在も採石が続く福光石の石切場。採られる石は淡い緑色を帯び、温かみがある手触りのグリーンタフ(緑色凝灰岩)です。1500万年以上前、日本列島形成の地殻変動で激しい火山活動がありました。その時、火山灰や軽石などが海底に堆積してできた石が福光石です。柔らかく加工しやすいことから多くの用途に使われ、石見地方を中心に流通しま

した。特に石見銀山では墓石などの石造物に多量に使われています。かつては全国各地で凝灰岩が採石されましたが、現在も操業が続く石切場は数少なく、福光石は貴重な存在になっています。

福光石の石切場

〒699-2514 島根県大田市温泉津町福光ハ107-1

TEL 0855-6512998 (NPO法人石見ものづくり工房)

※ガイド同行のため、見学には事前の予約が必要です。

P 有り H 有り





鬼伝説が伝わる巨岩

9 鬼村の鬼岩

おにむらのおにいわ

道端にそびえる巨岩は、上部が傘のように広がり、えぐられたような側面に5つの穴が並びます。穴は鬼がつかんだ指の跡という伝承が伝わる岩はその名も鬼岩。海底火山の噴火でできた凝灰岩からなり、岩に含まれる塩類の作用によって風化が進み、特徴的な形状と側面の穴が形成されました。このような風化は、海岸ではしばしばみることができ、海から離れた場所でも鬼岩のように明瞭なものは珍しく、岩石中に溶け出しやすい状態の塩類が多く含まれているとみられます。近くには、石こうを産出した鬼村鉱山の跡があります。この岩を作った火山活動に関係して形成された鉱床を採掘したものです。

MAP No. 9



化石になった樹木

11 波根西の珪化木

はねにしのけいかぼく

国の天然記念物「波根西の珪化木」は、海岸の海食崖から斜めに突き出し、一方の端が海底の岩盤に続く産状が目を引く大型の樹木化石です。ブナ科の樹木と推定されるこの化石は、1500万年前より少し新しい時代の火山噴火で埋められました。珪化木の樹木は噴火に伴う土石流で押し流され、当時の海岸付近で埋められました。珪化木周辺の海底にも多数の珪化木が横たわっていることがわかっており、土石流が森林の樹木をなぎ倒して流れたことが想像できます。昭和のはじめに近くの久手漁港が建設された時には、海底から何本もの珪化木が引き上げられたといえます。そのひとつで大型のものが久手小学校の校庭に設置されています。



地層の海食崖

12 立神岩

たてがみいわ

海岸に面した断崖は高さ80mに達し、岩を切り取ったような形の島と、はつきりとした地層が印象的です。山陰本線の車窓からもよく見え、大田市東部のランドマーク的な存在です。火山灰と軽石が堆積した凝灰岩が明るい色の層、礫岩が暗い色の層で、約1500万年前に海岸で形成された地層です。地層から、近くで火山の噴火が繰り返されたことがわかります。



岩の西には1950年まで波根湖という湖が存在しました。中世までは港として使われた湖で、湖岸にある古代寺院の遺跡が古くからの交易を物語ります。港の目印や航海の安全を祈る岩を立神岩と呼ぶ例が他地域にいくつもあり、この立神岩も港の目印としての役割を果たしてきたのでしょうか。

洞窟の神社

8 静之窟

しずのいわや

『万葉集』に生石村主真人が詠んだ「志都乃石室」は、大己貴命と少彦名命が国造りの際に仮住まいした地で、静之窟はその比定地とされる洞窟です。洞窟には口がふたつあり、奥行45m、高さ13mもの広さを持ちます。古くは信仰の場で、昔は静間神社が



洞窟にまつられ、今も一方の口に鳥居が建てられています。洞窟の岩盤は約1500万年前の火山噴出物が堆積してできたもので、断層や岩脈が複雑に入り組み、日本列島形成の地殻変動の激しさを物語ります。断層による破壊でもろくなった部分が波に削られたことで、洞窟の広い空間が形成されました。



1500万年前の樹木

3 仁万の珪化木

にまのけいかぼく

緑色が鮮やかなグリーンタフ（緑色凝灰岩）を見ることが出来る仁万海岸の波食台に、2個の大きな樹木化石（珪化木）が露出し、「仁万の珪化木」として県の天然記念物に指定されています。波食台上に横たわる珪化木をよく見ると、割れ目に小さな石英（水晶）がびっしりと並んでいることに気づきます。石英は二酸化ケイ素からなる鉱物で、この成分が樹木を石に変化させました。1500万年以上前、火山灰に埋もれた樹木に温泉水が染み込み、その中に溶けていた二酸化ケイ素が樹木の中で固まることで硬い石になりました。形は樹木ですが、成分はほとんど置きかわり、石英やメノウなどの二酸化ケイ素の鉱物の塊になっています。



道にそびえる岩山

4 龍巖山

りゅうがんざん（たついわ）

龍巖山は、空へ伸びるような巨岩が波のように幾重にも重なる奇岩で、その頂上は石見銀山守衛の山城のひとつ、石見城の跡です。この岩は約1500万年前に火山が噴火した時、マグマが地を割って上昇した火道の部分にあたります。マグマが上昇する方向に沿って伸びた時に「流理」と呼ばれる筋ができ、その筋に沿って風化が進んだことで空へ伸びるような形が生まれました。岩には風化によってできた穴がいくつもあり、その内側は酸化鉄の沈殿によるとみられる赤色をしており、龍の口のようにも見えます。最大の岩壁は市の天然記念物のノウゼンカズラが覆い、夏には朱の花、晩秋には鮮やかな紅葉を見ることができます。

